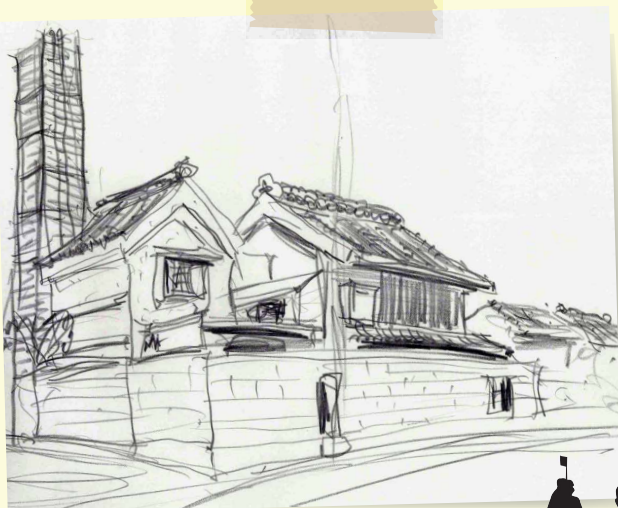




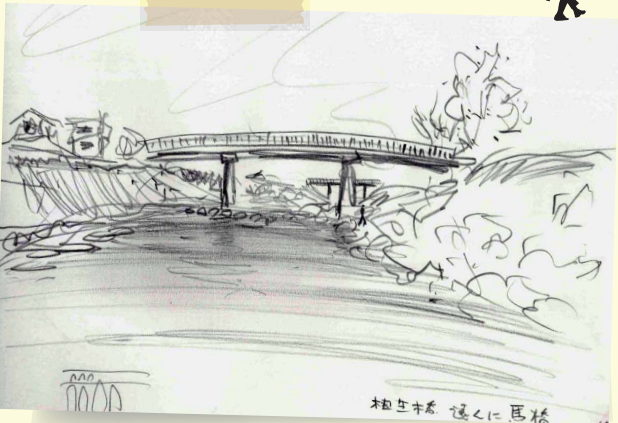
スケッチ:青山恭之



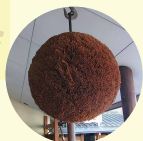
▲旧カー工場



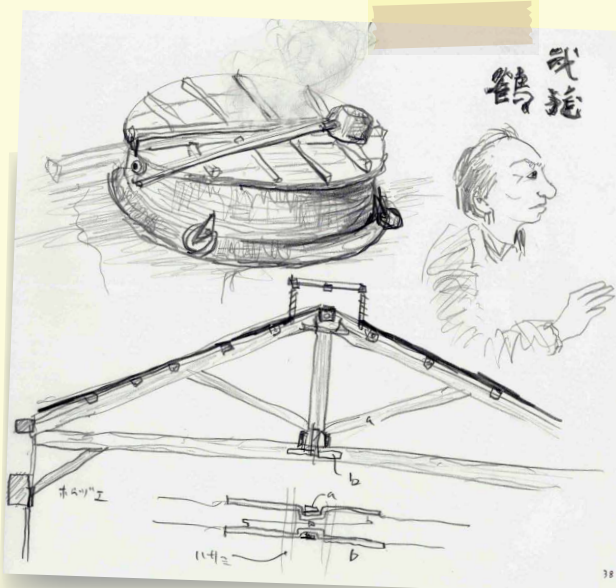
▲晴雲酒造



▲機川の風景



小川町アート散歩 目と舌と耳で楽しんだアート



▲武蔵鶴酒造



▲小川町立図書館

初

冬の青空の広がる小川町駅前に集まったのは古い街のよさを愛する者たちの面々。アーティストの伊東孝志さん、小川町職員の内田康さんにも案内に加わっていただき、歩き始めました。まずは武蔵鶴酒造へ。社長から、日本酒への熱い思いを聞き、日本酒と奈良漬の味に感激。次は、新しい小川町立図書館へ歩き、神原和子副館長から、建設計画当初からの経緯をうかがいました。蔵を意識した外観とともに、地域に根差した図書館のあり方が実現されていました。その後、旧カー工場や、比企銀行の古い建物などを見ながら路地を歩いていくともう昼の時間。街道に面した「わらしべ」さんで、有機野菜のランチをいただきました。お客さんに力fulな衣装の自転車乗りの方々が多く、古い街の新しい面も感じました。

食へ終わって裏口から路地へ。街道と平行する路地には、連立する蔵や、生け垣の特徴的な造形など、歩き進むにつれて発見の連続でした。そして、造り酒屋の晴雲へ。ここには、煉瓦積の煙突が残っていました。蔵の2階

次に訪ねた小川町和紙体験学習センターは、昭和初期のモタニズムの風を感じるような建築でした。そして、町屋を改装した伊東孝志さんのアトリエに到着。伊東さんに概要を説明いただき、松本ふみ江さんからは、小川の和紙と、第二次大戦の時に和紙で作られた風船爆弾の話がありました。おはきにお茶、おつけものまで用意していただき、さらには伊東さんご自慢のオーディオまで聴かせていただきました。

日没の時刻が近づいてきたので、伊東さんのアトリエを後にし、小川駅まで歩きました。途中、女郎うなぎの「福助」の玄関にお邪魔して見事な天井のレリーフを見ていただきました。そして、駅で解散。お酒の味が忘れられない輩達はお土産にと武蔵鶴酒造に向かつて行ったようでした。人文の香り高き街に乾杯！

(Y・A)



▲伊東孝志さんのアトリエで、松本ふみ江さんの話を聞く

「アーティスト前橋」視察と ラウンドテーブル

12

月8日、私たちはJR前橋駅に降り立ちました。目的は、先ごろ(10月26日)開館した「アーツ前橋」とその周辺で展開しているアートの現場を視察するとともに、12月に開催する「SMFラウンドテーブル2013」の打ち合わせを兼ねています。10時半にアーツ前橋の前で待っていてくださったのは、開館記念展にも出展しているアーティストの白川昌生さんとカナイサワコさんでした。挨拶もそこそこまずは周辺を散策しましょうということになり、歩きはじめました。ルートは、中央通りから弁天通りへ至るアーケード通りで「国際交流広場まちなかサロン」「ya-gins(ヤーギンズ)」「旧安田銀行担保倉庫」「Maebashi Works(マエバシワークス)」を順に案内していただきました。

「ya-gins」は、アーティストの八木隆行さんが運営するギャラリーで、奥に座敷のあるアットホームなスペースです。「旧安田銀行担保倉庫」は、もともと生糸や繭の倉庫でしたが、現在は一階に画廊と骨董店が入っています。更に二階が(普段は見られないのですが…)プライベートギャラリーになっていて、真っ暗な空間に窓の明かりを利用したアート作品が展示してありました。次に訪れた「Maebashi Works」は、アーティスト(カナイさんのアトリエもここにありますが)やキュレーターがシェアしている4階建て建物で、細い階段を上ってめぐる内部は、和洋折衷の様式がパッチワークされた異空間が続いていて、屋上(?)に出るとちょうどアーケードの上が見渡せる秘密のピュースポットへたどり着き、午前の視察を終えました。

昼食をWorksの隣の蕎麦屋で摂った後、午後一で開館記念展を鑑賞、アーティストトークにも参加し、「磯辺湯活用プロジェクト」を観てアーツ前橋に戻りました。アーツでは住友館長も加わり、アーツ前橋を含む前橋の今後について意見交換を行いました。館長曰く、これまでは準備期間ということもあつ



◀「磯辺湯活用プロジェクト」のひとつ



▲昨年10月に開館したアーツ前橋のアットホームなカフェ



▲アーティストの白川昌生さん(右)のガイドでいざ出発!



▲「旧安田銀行担保倉庫」2階には暗闇に不思議な作品が浮かび上がる



▲「前橋食堂」プロジェクト展開中の増田拓史さん



▲アーティスト八木隆行さんが運営する「Ya-gins」

て地域での活動がメインだったが、館ができてしまうと展覧会に追われることになるだろう。お陰さまで外部の方々の注目度は、ますますだが、地域に対してはなじめていない面もあるので、今後は地域の人々との接点を如何に厚くしていくかが課題、などの現状分析について伺いました。

12月22日のラウンドテーブルでは、前橋文化推進会議の副議長を務められた福西敏宏さんと「ya-gins」の八木隆行さんにお越しいただき、前橋のアートシーンの現状について語っていただきました。全体を二部構成として、前半に本年度のSMFメンバー活動報告を行い、後半に前橋の現状を伺ってから全体で討議をするというスケジュールで開始したものの、SMFメンバーの活動報告が大幅に時間を押ししまい、前橋からお招きしたゲストを呆れさせる一幕も。

福西さんからは、アーツ前橋が開館するまでの周辺地域での取り組みと開館時の様子について報告をしていただき、八木さんからは前橋で現在起こっていることについてアーティストの視点から語って

いただきました。八木さんがおっしゃるには、現在前橋で起こっていることは、大学や行政などの組織を背景とした社会的な動きというより、様々な個人が個別の考えに基づいて行動していたことが、結果的にボリュームがある全体的な動きに見えている、ということが特徴かもしれない…という見解が示されました。今後は個々の動きをどうやってつなげていくかが課題で、印刷物の配布やネットワーク上の情報共有を試しているところですが、基本的に一人一人ができることをやりながら今後の展開を模索しているところで、できれば文化系女子などがもっと集まってくれるといいなという、ぶっちゃけトーク(?)も飛び出す、熱い討議が続きました。

後の懇親会では、社会芸術/ユニットウルスの吉田富久一さんも加わり、これまでの群馬の様子についても話が及び、さらにディープなアート談義に花が咲きました。(I.S)



▲SMFメンバーの活動報告



▲SMF ラウンドテーブル